

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	かえで荘
(ユニット名)	2号館
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市針尾東町977-5
記入者名 (管理者)	中山 敏子
記入日	平成 19 年 8 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	実践しやすく、理解できるような理念を掲げ、入居者にとって心やすらぐホームづくりに努力している。理念は誰にでも見えるところに掲げています。	○	できるだけ個別ケアが出来安らげる生活を提供している。一人ひとり出来ることへの支援に力を注いでいる。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に唱和を行い、日々理念を基に職員の意識を高めている。	○	理念を基にケアに対する意識付けを行っている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	直接的に理念についての理解を求める伝達は行っていないが、来所時などに、目につくところに掲げている。入所時などに理念に添っての支援を行うことの説明はしている。	○	地域への理解に対しては出来るだけ、説明できる場があれば出かけたりして、又近所の方々へは広報誌などの配布を検討していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶などは必ず行っている。(一年の目標としている)	○	隣近所とのかかわりは、挨拶程度なので公民館活動や地域の行事などに参加して交流を深め、理解していただくことから気軽に立ち寄っていただける取り組みをしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前は子供会や老人会との交流があったそうですが、今はほとんど来ていない。	○	地域の活動や情報が伝わってこないこともあるが、こちらから積極的に発信しなかったこともあることから、ホーム便りなどの提供や行事などへの参加も検討していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いや取り組みは行っていないが、地域の高齢者の把握は今後の取り組んでいくことで役にたつ事になる。	○	町内や地域の状況を考えると取り組みには時間をかける必要がある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をする事で見えてくるものがあり今後のケアに生かしていきたい。	○	職員へどのような意義があるのかの説明が必要ではないか、また評価後の内容の説明、今後の改善の必要性を伝えていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員へ説明不足で理解が出来ていないが、2ヶ月に一度の取り組みの報告は行っている。報告書は作成している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	いろいろな取り組みが出来るように話しを伺う事はしています。	○	市町村とのかかわりはとても大切だと思うが担当者の方から来て取り組みなどの意見交換など出来ればと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々での学びは行っていると思うがそれ以上の事はされていない。必要な方がいれば支援していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のほとんどは研修や勉強会などで学んでいる。ホーム内での注意、防止に努めている。	○	研修や勉強会の参加を促しながら実践的な講習を受講していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い家族からの意見も話してもらえるように配慮を行っている。	○ 家族からの意見が話していただけるような場を作っていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全員の方が表せるわけではないので、家族様との話の中から見出せるように配慮している。	○ 苦情として受け入れていることもある為、対応は必ず本人様を交えて話をしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	報告をしています。(かえで荘便りを発行)面会時には必ず要望なども聞き本人様の状況報告を兼ねて再度ケアプランを確認してもらっています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見は必ず職員へ伝達し運営に反映させている。玄関に意見箱を置き気軽に意見が言えるようにしている。	○ それぞれの担当者が把握し家族様との信頼関係を保ち気軽に意見が言えるようなかかわりをつくっていききたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや話合える機会はあります。職員の意見や考えが伝わってはいるがその後のことが伝えられていない	○ 意見を話すことと、不満を言うことの区別を見出すことが必要です
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整は行われているが、職員との話し合いが少ない。	○ 勤務変更などの横の連絡はあっても次の日は縦の連絡が出来ず戸惑うことがある為連絡ノートの活用をする。またシフトの公平性を保つためミーティング時話しあいたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮を行っている。退職者などがある場合利用者様へは特別報告は行っていない。担当のご家族へは報告と今後の話を行っています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のほとんどが研修参加の機会を得ている。又勉強の報告を兼ねて他の職員共々勉強会を行っています。一人ひとりの能力の向上を図ることが出来るようスーパービジョンが行われている。	○ 職員自信のやる気を見つけ他事業所などの取り組みが見学できたり参加できるような窓口を作っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	向上心のある職員は自分から出かけて行き学んでいる。知り得た情報は全員で共有している。	○ 交流は自分で時間を作り出かけていき行うもので、お膳立てした事に乗るようでは意味がなく各々の取り組みが出来ることへの支援は行って生きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々の食事会やレクリエーションで親睦を深めストレスをためないようにしている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の面接などを行っている。職員の気持ちを理解しようと取り組んでいます。努力が見られた方へは声かけなど配慮してくださる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話を聞き受け止める努力をしている。御本人の事を多く知ることによって利用後の支援に繋がる。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御本人、御家族様に困りごと、不安なこと、求めていることを十分に受け止めています。相談までの心のケアまでもが支援ではないかと考えています	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞き優先順番が高い項目を見出し対応を行っています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御本人の気持ちを優先し馴染めるような支援を行うため、職員同士の情報交換を行い雰囲気づくりに配慮していきます		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護される方ではなく人生の先輩として学び支えあえる関係が出来るように努力しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とのかかわりができ共に支え合える関係を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	この項目は一番大切なことであり支援を行っている。	○	家族がいつでも出かけてこられるような支援を考えています。(年に何度か昼食を一緒に食したりおやつ作りが出来ないか検討中です。)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方との交流は大切でありその人らしく生活していくことの原動力になっているものなので十分支援を行っています	○	何か行事がないと出かけられないと思わないでいいように月に一度のお便りのほかに時折状況報告ができるようなことを考えて生きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの性格もあり孤立している人がいないとはいえない。そのつど対応を行い関わりあえる支援は行っている。	○	閉じこもりがないように声かけを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	個々により関係をより深めている職員もいる。ほとんどは関係が切れてしまう。	○	再度のご縁を考えてお便りや新聞などをお送りしていつまでもかかわりが持てるようにしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	検討を行い一人ひとりの希望に添っている。しかし事がエスカレートしていく方もあり内容を検討していくことが必要である。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日ごろの会話などからその方の生活史を把握し出来ることへの支援や出来ることの披露を促し生活の向上支援に繋げていく。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活の中でもその人らしく生活できるように支援を行っているが職員がその人に合ったケアを提供するように心がけている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	始めにご本人の希望や要望など聞き取りが可能であれば行いその他はほとんど家族様との話の上で出来るだけ意見を反映させた計画を作成している	○	誰にでも出来、作成することが出来るようなアセスメントを独自に作り一人ひとりの状況を理解するようなものにしていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応できない状況になられるまでの間に何度か話し合いを行うこともあるが、そのまま状況を見守りつつそのつどの対応で見直し期間まで待つこともある	○	一人ひとりの見直しがスタッフ全員が出来、家族への対応も出来るように取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録やチェックリストによりご本人の状況把握をしている為介護計画の見直しに活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族様と御本人様の意見や要望はきちんと受け止め支援を行っている。	○	今後生かしていけるような取り組みを検討中です。(デイサービスで行える陶芸、パン作り、手芸など)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	支援が出来るものには限られているため幅広く協力していきたい。(ボランティア、消防)	○	消防訓練など地域の消防士さんなどの話を聞くことが出来るようになってきた。身近な老人会や民生委員さんとの交流を図って生きたい。こちらから出かけていけるようなかわりを作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所までのかかわりだけでなくその後の情報の共有や支援を受けることがある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今はありませんが他のことでの情報の共有を行っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診や24時間看護師との連絡体制により安心して支援できている。本人の状況により受診も受けることが出来る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院されたことで今後の状況など話し合い、長引く入院に対してはいったん退去の手続きをとっていただいている。(3週間以上)
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	職員全員にはしっかりとされた方針の話し合いが持てるようにしていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後の課題としてスタッフの心構えなど支援に取り組む上でのマニュアル創りなど検討したい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		移り住む際の配慮は十分に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	対応時の声かけには十分に注意をしているが、時折使ってはいけない言葉や配慮のない言葉を聴くことがあり、記録へ記入する時の言葉にも気をつける。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	御本人の希望が言い表せるような働きかけをしている	○ 月に一度くらいを目安にゆっくりと話ができるような日を設けたいと思っています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先していることが見えていることもある。しかしほとんどの方はマイペースで過ごされている。行事活動においても強制はせず自由に楽しんでいただいている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院へいける方ばかりではないので、施設で整えている。パーマをかけたい方は出かけられたり、家族の方と出かけたりにされています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえなどの手助けをしていただき、一緒にテーブルで食べ、かたづけもしていただきます。	○ 社長、職員と一緒にテーブルを囲む事で安心して食事が出来ている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を提供することはまずありませんが、好きな飲み物やおやつは楽しめます。病気で甘いものが提供できない方への気配りを行っています。好きなもの甘いものは誰であれ食したいものできるだけ	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	大切なことでもあり本人のパターンを理解して排泄の声かけ、誘導の時間を決めて支援していく。失禁された事で申し訳ないと思わせないような支援をしている。	○	職員全員が同じ方向性を持って声かけを行い、決して傷つけるような声かけだけはしない。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間は職員の都合で決めているが希望があったり清潔保持の必要がある事態になった時は対応をおこなっている。	○	本人の希望する時間、曜日に支援できればいいのですが話し合いを行い、全員は無理でも何人かつづでも支援できるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入眠時から支援を行い、気持ちよい目覚めが出来るようにしている。	○	入眠時薬に頼らないで安心して寝られるように支援が出来ないか検討していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	はりのある生活が出来るようにを一番にケアプランに反映させている。その人らしく楽しみをもって過ごしていけるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人差はあるがお金を使うことが出来る方には買い物等への支援をしている。	○	お金を使うことへの理解は出来るが、持っているだけ一度に使ったり、必要でないものを沢山買ったり、お金が手元がないと不安な方や仕舞い込んでわからなくパニックになる方への配慮が必要になります。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	十分な支援は行えていないかも知れないが施設周りの散歩だったり、畑での収穫だったり身近での支援は行っている。遠出になると行ける人が限られているためその時の状況に応じて同伴している。	○	外出する人が毎回同じ人だったこともあり検討しながら全員が出かけられるような支援を毎月話し合っていきたい。(今月は誰と誰というように)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間に何度かの計画をして、楽しみにしていただいています。家族の方との外出は出来るだけ支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方は電話の使用があったり、手紙を自主的に書き投函を希望されたりの日常生活が見られることに支援をおこなっている。	○	定期的に家族や馴染みの方へのお便りが出せるような月を設けていきたい。(年に4回くらい)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるような雰囲気に関心をしています。	○	入所時に面会はいつでも自由であることを説明しています。面会時にゆっくり過ごせる場所の設置があればいいのではないかと思います。(談話室など)
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないと言うことでケアにとりくんでいる	○	勉強会や研修に行き身体拘束への知識を高める取り組みを行っています。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	カギをかけないことを原則に自由に動ける取り組みを行っている。しかし施設の前が国道であることから入り口のみ鍵をかけ安全に配慮している。他は施錠していない。	○	どのように取り組んでいけばカギをかけずに済むかひとつの課題ではあるがいろいろな意見を聞きながら最善の方法を検討していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	人数確認や所在確認は随時行っている。職員が場を離れる時も一声かけるような配慮を行っている。	○	職員同士の一声があればお互いに周りを見ることが出来ます。実践された場の様子などの情報を共有して実行につなげて行くようにします。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	御本人様の思い出の品物などは身近に置いていただいているが時折その物が不穏をおおる要因になっているものは家族様と相談して安心して託せる方をお願いしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒は特に一人ひとりに合わせて注意をおこない、事故防止のことは勉強会などで情報共有をしながら安全に過ごせるようにしていきたい。	○	危機感を持って見守りや声かけをしていく事を強化している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	その時になると行えないことも出てくる。常に訓練を行う体制は整えてある。緊急連絡網にて連携ができる。	○	定期的な訓練を行うように計画している
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	行えていない。職員独り一人の自覚により災害時対策は心得ていると思います。	○	避難訓練を検討していくが、地域の避難場所などの把握をおこない協力していただけるような話し合いなどを先に行いたい。施設としてのマニュアルを早急に検討していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの状況を把握し入所時などに御家族様へ話をし現在の状態に見られるリスクについて前もって話をさせていただいております。	○	いつ如何なる状況があるかわからないことある為必ず話をするようにし、施設としても最善の手を尽くすことをお約束させていただいております。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々見守りや様子観察を行い、異変に気づいた時は速やかに看護師や上司に連絡を行い適切な対応を行う。毎日の記録により状態の変化を把握して観察を行う。	○	縦、横の職員の連携が大切になってくる為、常に情報の共有を行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のことをすべて理解をしていない。その日一日の分はチェック表などで判るようにしている。服薬後の変化については速やかに上司に報告し指示を受け対処している。	○	誤薬がないように確認後の服用を義務付けている。本人が服薬をしたか理解が出来ない方にはシールを貼ったり、本人のドアに後の袋を貼り付け確認を促している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行い便秘に注意している。水分の摂取や散歩などで体を動かすことを進めている。排便困難の状況がある人は看護師の指示により下剤や座薬で対応している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけしながら支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表により毎日状況の把握を行っている	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、ノロウイルスなどは対応の取り決めがある。その他予防として手洗い、調理器具などの消毒、施設内週一回オスバン拭きなどを行っている。	○ 研修の義務づけと情報の共有により知識が得られたことの報告を必ず行う
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い、調理器具などの消毒、ふきんやタオルの消毒を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の周りには花、植物など四季折々の楽しみが出来るようにしている。門扉以外は施錠せず開放し散歩や花を摘むことが出来る。門扉の施錠は前が国道である為この鍵は施錠が必要です。	○ 門扉の改善は検討をしどのようにすることが安心して出入り出来る工夫なのか話合っている。安心と危険が隣あわせの為慎重に検討したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いごちのよい工夫をしている。時折トイレが重なり別のところに誘導できるよう三箇所のトイレを設けている。	○ 洗面台が車イスが入れない。洗面台の工夫、あるいは改造が必要であることを検討している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広く確保し、居間は工夫を行い居心地の良い空間作りを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じ、使いなれた家具の持ち込みをされている。夜間の排泄に困っている方はトイレをおいて使用されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後は窓を開け換気を行い、居室の温度調節はこまめに行っている。快適な居室で過ごしているために尿臭などは徹底的に元を探すようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーに心掛け、必要に応じて手すりが設けられている。車イス使用の方へはベッドの下に滑り止めや、入浴時はリフトを設置している。安全に心がけ注意を払っている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援を目標にして出来ること、手伝いがあれば出来ることなど見分けながら本人の力を引き出している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室外の窓に花を植えたプランターを設置している。温室など他施設にはない設備を兼ね備え癒しの場所になっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

真冬や真夏を除きほとんど毎日外で過ごし気分転換を図っている。食事は社長、職員も一緒に食べている。花や植物に囲まれ自然にふれあえることで入居者様の安定した生活が図られています。